

実証実験がスタート

那智山で熊野古道ナビプロジェクト

世界遺産の地、那智勝浦町那智山で4日、国土交通省などが進める「熊野古道ナビプロジェクト実証実験」がスタートした。12日（日）までの10日間、熊野那智大社や那智山青岸渡寺に設置されたスタンドに専用の携帯端末や携帯電話をかざすと世界遺産の情報や「熊野古道ナビプロジェクト」が得られるというシステムで日本語、英語、韓国語、中国語の4カ国語で表示する。

東京のYRPユビキタス・ネットワークインフラ研究所と国土交通省が進める「自律移動支援プロジェクト」のひとつ。自律移動プロジェクトは街角や道路などにICタグと呼ばれ



スタンドに取り付けた情報プレートに携帯端末をかざせば世界遺産の情報などが画面に映し出され、音声も聞ける



熊野那智大社境内で行われた「熊野古道ナビプロジェクト実証実験」のテープカット

小さなチップを埋め込んだり、赤外線マーカーなどで「u-code（ユーコード）」という固有番号をつけ、携帯端末で町の情報を呼び出すというもの。トイレや休憩所、交通機関への経路をこの携帯端末が教えてくれる仕組みになっている。

「いくらトイレを作っても場所の情報がない、実験の成功を祈りながらテープカットした。実証実験の受け付けは町営大門坂駐車場、那智の滝前駐車場、参道入口の3カ所に設けている。

セレモニーには地域アドバイザーの熊野那智大社の朝日芳英昌司、那智山青岸渡寺の高木

亮英副住職、地元の中村昭二郎町長らが出席し、実験の成功を祈りながらテープカットした。実証実験の受け付けは町営大門坂駐車場、那智の滝前駐車場、参道入口の3カ所に設けている。